

令和元年度

幼保連携型認定こども園
愛媛幼稚園

幼保連携型認定こども園
愛媛星岡幼稚園

自己点検・自己評価
学校関係者評価

令和元年度 自己評価結果報告書

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園

1. 本園の教育目標

本園は、園児の健全な成長・発達をはかることを目的としている。行事・遊びを通じた様々な体験、音楽、体育、自由画などの情操教育、自然と触れ合う楽しい保育、適切な時期に適切な5領域教育としつけを行うことにより園児の好奇心を導き出し、園児の関心を満たし、保育教諭や友達との関わりの中から、社会性を学び、生きるための知能や感性を獲得していくことが一番と考える。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、教育・保育の質を高める。
- ・研究大会の公開保育の実施を通して、自己の教育・保育を深める
- ・安全防災管理に努める

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己点検・自己評価の結果は、項目の内容も一部見直ししたが、昨年度より良くなっている。教職員が真面目に検討した様子も伺える。勤務形態の違いにより、研修会への参加が難しい保育教諭もいるが、研修内容を伝えて、共通理解が図れるようにしてきた。公開保育の実施にあたり、自己の見直しや保育教諭間の連携も密にとれるようになったように思う。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全環境・防災対策	日々の遊具の点検・園庭や室内環境について話し合い、幼児の発達に沿うようにする。 地震・火災・不審者避難訓練について、随時見直しをしていく。
幼小連携	幼児教育から小学校への接続・連携など見直しを持った目標・計画を作成する。

I 教育・保育計画・方針について

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
1	園の教育理念や、教育方針を理解している。	34			
2	園の教育方針に共感している。	34			
3	園の目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。	33		1	
4	指導計画は教育要領・教育課程・乳幼児の実態などをもとに考えて作成している。	28	1	2	3
5	幼児が主体的に活動できるような環境構成をしている。	33		1	
6	季節、行事を通して、乳幼児の発達に即した経験ができるように、計画をたてている。	29	1	3	1
7	乳幼児が安全で心地よく過ごすことができる環境を整えている。	32			2

II 保育の在り方・乳幼児への対応

8	一人ひとりの乳幼児をよく観察するようにこころがけている。	34			
9	子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や、特性などに配慮しながら指導している。	34			
10	基本的な生活習慣や、生理現象に関しては、一人ひとりの乳幼児の状況に応じて対応している。	32		2	
11	乳幼児一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている。	34			
12	乳幼児のことについて、保育教諭間での話し合いを持ち情報を共有している。	33		1	

III 保育教諭としての資質や能力・適正

13	保育教諭としての専門知識や技能を身につけている。	33		1	
14	乳幼児や保護者との対応には公平を欠かさないようにしている。	34			
15	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	34			
16	生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	34			

IV 保護者への対応

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
17	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って伝えあっている。	34			

18	保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針にしたがっている。	34			
19	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長・副園長に連絡、報告、相談している。	34			
20	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については容易に受けたり、断ったり、無視しないで園長や副園長、主幹保育教諭に報告や相談をしている。	34			
21	園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや、会話を心がけている。	34			

V 研修と研究

22	研修会や研究会に参加する際には、自分なりの目標をもって臨み、学習したものを報告書にまとめ提出している。	26		6	2
23	自分の保育については、自己課題をもって計画と反省をおこなっている。	32		2	
24	研修に参加し、学習を通して、自身の保育に役立てている。	27	1	5	2
25	絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	32	1		1
26	アレルギー、自立の遅れなどが見られた場合、個々に応じた配慮や対応をおこなっている。	34			
27	趣味、人とのかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている。	34			

VI 食育・保健・環境

28	食事のマナーを知り、守って楽しく食事ができる環境作りを行っている。	32		2	
29	いろいろな食材に興味・関心を持ち、苦手な食べ物も食べられるように工夫している。	32		2	
30	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	34			

VII 成果と課題

--

【成果】

- ・学校ではあまり学べなかった「経験」をたくさん学べた。
- ・保育教諭間での連携がうまくいくよう意識して過ごせた。
- ・初めての指導が多かったが、周りの先生たちを見て学べた。
- ・前回足りなかったことを、次回の指導に生かすなど課題を見つけ、改善しながら保育できた。
- ・過去の自分自身の反省を踏まえながら保育に取り組めた。
- ・幼児の発達段階に応じて、声掛けし、習慣づけ、場に慣れることでの成長が見られた。
- ・研究大会に向け、より自分の保育を見つめなおすことができた。
- ・分からないことは聞く、メモすることで、一つ一つ自分の身になっていると感じる。
- ・指導方法や伝え方など考え、意識しながら保育している。
- ・研究大会を通して、遊びの中での子ども同士の関わり・やり取りの変化に気づき、どう言葉掛けをすればよいか考えられる機会になった。
- ・昨年度の経験から一人一人に合った声掛けや保育を考えられるようになった。
- ・研究大会の話し合いを行っていくことで、今まで以上に保育教諭間が密になった。
- ・日頃から一人一人に合った言葉掛けや配慮をするよう心掛けている。
- ・それぞれの成長段階に合った接し方・援助など保育教諭同士話し合っ進めていくことができた。
- ・研究大会で、沢山の先生方に見てもらい、アドバイスをしてもらうことで、良い点・改善点が見つかった。

【課題】

- ・職員間の連携がもっと円滑にできたら良い。
- ・多くの反省と課題を得ることができたので、少しずつ克服し、より良い保育ができるようにしたい。
- ・経験不足で至らない点があるので、日々、周りの先生の保育を参考にしながら学んでいきたい。
- ・一人一人にあったかかわりを心掛けていきたい。
- ・子どもへの声掛けの仕方に気を付けたい。
- ・子どもの年齢が違って、楽しく遊べる場の提供・一人一人に応じた声掛けなど細やかな対応が必要と感じる。また、遊びを通して、友達同士のかかわりも大切にしていかなければならない。
- ・子ども一人一人違うことをしっかり理解し、その子に合った保育を日々見つけ、対応していく。
- ・日々、子ども達と共に勉強している。事前にこういう言葉をかけておけたら、より想像力を引き出せたのではという力不足を感じるが多かった。
- ・子どもの気持ちに寄り添ったり、くみ取ったりして、子どもの考えも感じながら、保育や指導を行いたい。
- ・限られた活動や時間の中で、どのように保育するか、個だけでなく全体を見ていく難しさを感じた。保育教諭同士で、話したり、少し視点を変えたりしながら、視野を広げたい。

令和2年度 幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園

学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員

松山市三番町二丁目 町内会長、民生児童委員

学校法人 愛媛幼稚園評議員、一級建築士

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 PTA 役員会会長

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 PTA 役員会副会長

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 園長

奥田正子

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 副園長

森陽子

学校法人 愛媛幼稚園 理事長

奥田一品

第1回学校関係者評価委員会

日時 令和1年11月29日
場所 幼保連携型認定こども園愛媛幼稚園 会議室
出席委員 7名中6名

議題 自己点検・自己評価に使用するアンケート項目の検討・承認

自己点検・自己評価に使用するアンケート項目について検討がなされた。各委員慎重に検討し、アンケート項目が承認された。また幼保連携型認定こども園愛媛星岡幼稚園で自己点検・自己評価のアンケートに加えて、教職員の保育についての考え方を無記名のかたちで集めることについて報告したところ、幼保連携型認定こども園愛媛幼稚園でも同様に行うことに決定した。

その他意見

今年は運動会を武道館で行ったが、会場変更理由についてのお知らせが遅かったことから、変更事項については早めに連絡してほしいとの意見が出された。

第2回学校関係者評価委員会

日時 令和1年2月14日
場所 幼保連携型認定こども園愛媛幼稚園 会議室
出席委員 7名中7名

議題1 自己点検・自己評価について

・“研究と研修”の項目で“わからない・無回答”が散見される項目があるが、これは預かり保育の補助などを時間給で行っている保育教諭が含まれているからであり、時間の都合上あまり研修会や研究会に参加していないためだと考えられる。しかしながらこれら短時間勤務の保育教諭にも、研修会や研究会で得られた内容を伝え、能力の向上をはかるようにしていきたい。

・記述式の“成果と課題”については、自己点検・自己評価のデータとして重要であるのみならず、各保育教諭がどのように考え、どのような意見を持っているのかが分かり、非常に有用であると思われる。

・以前からこの委員会に参加しているが、自己点検・自己評価の結果が年々改善されている。これはこれらの項目を意識して普段の保育業務を改善しているからと考えられる。

・アレルギーは非常に重要な項目であると思われる。教職員にたいする質問だけではなく、保護者に対する情報提供も行ってほしい。また近年、さまざまな災害が起こっていることから、防災についての項目も必要ではないかと思う。

・幼保連携型認定こども園に移行してから、幼稚園教諭だけではなく、未満児保育、一時預かり、預かり保育、子育て支援などさまざまな業務が生じてきている。業務によっては質問することが適切ではない項目もあるので、そのあたりも考えなくてはいけないかもしれない。

議題2 その他の意見・提案等

- ・今年度は愛媛県私立幼稚園協会の研究大会の会場園となり大変だったが、多くの保育教諭が貴重な体験だったと感じており、研究大会を通じて保育の向上がはかられたと思われる。
- ・研究大会は大変であったが、保育に有用だと思う。これを機会に先生同士の連携がふかまれば良いと考える。
- ・上の子供が卒園して小学校に進学しているが、卒園後に愛媛幼稚園に通わせてよかったとわかることがある。たとえば音楽については幼稚園での経験から非常に自信を持っており、この音楽に対する自信が学校生活をより良いものに行っていると感じられる。
- ・いろいろな項目があるが、子どものことを思う優しい先生たちがいて、こどもがその先生たちといろいろなことをするのを楽しみに登園するのが一番だと思います。普通だったらお化粧して遊んでいるような年齢の若い先生が、子供の目線に立って一生懸命に愛情を注いでくれるのがありがたい。
- ・以前は送迎で幼稚園の前に駐車する自家用車が子どもをひかないかとハラハラしていたが、改善されて良かった。

令和元年度 自己評価結果報告書

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園

1. 本園の教育目標

本園は、園児の健全な成長・発達をはかることを目的としている。行事、遊びを通じた様々な体験、音楽、体育、自由画などの情操教育、自然と触れ合う楽しい保育、適切な時期に適切な5領域教育としつけを行うことにより園児の好奇心を導き出し、園児の関心を満たし、保育教諭や友達との関わりの中から、社会性を学び、生きるための知能や感性を獲得して行くことが一番と考える。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

○職員間の連携

- ・ 報告・連絡・相談の徹底
- ・ 終礼を通して他クラスの状況把握及び情報を取り入れることによる共通理解
- ・ 0～2歳の育ち、3～5歳の育ちを知り、生活や行事へと繋いでいく。

○園内研修の充実化

- ・ 幼児との関わり・言葉掛け・指導等、研修を通して保育教諭間での話合いをもつことにより、資質向上に繋げていく。

○安全管理に努める

- ・ 多様な場面において柔軟に対応できるよう、正しい知識を身に付けていく。

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己点検・自己評価の結果は、昨年度に比べ良くなっている。
今年度、職員一人ひとりが成果と課題を記述式の回答にすることで、具体的に見えてくるものも多く、共通の課題も見つけることができた。又成果は自身の励みとなり、今後の自信へとつながっていくと思われる。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境の工夫	幼児が主体的に活動できるよう、室内・外の環境構成を工夫する。
教職員の資質向上	園外研修に積極的に参加し、自身のスキルを獲得していく。
衛生管理 危機管理	感染症における正しい予防策と知識の取得。 災害（地震・火災・不審者等）発生時における正しい避難の仕方と園児を安全に避難・誘導できるよう、動線を把握しておく。

自己点検・自己評価

令和元年度

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 回答者 52名

Ⅰ 教育・保育計画・方針について

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
1	園の教育理念や、教育方針を理解している。	5 2			
2	園の教育方針に共感している。	5 2			
3	園の目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。	5 1		1	
4	指導計画は教育要領・教育課程・乳幼児の実態などをもとに考えて作成している。	5 2			
5	幼児が主体的に活動できるような環境構成をしている。	5 1		1	
6	季節、行事を通して、幼児の発達に即した経験ができるように、計画をたてている。	5 2			
7	乳幼児が安全で心地よく過ごすことができる環境を整えている。	5 1		1	

Ⅱ 保育の在り方・乳幼児への対応

8	一人ひとりの乳幼児をよく観察するようにこころがけている。	5 1		1	
9	子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や、特性などに配慮しながら指導している。	5 2			
10	基本的な生活習慣や、生理現象に関しては、一人ひとりの乳幼児の状況に応じて対応している。	5 2			
11	乳幼児一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている。	5 1		1	
12	乳幼児のことについて、保育教諭間での話し合いを持ち情報を共有している。	5 2			

Ⅲ 保育教諭としての資質や能力・適正

13	保育教諭としての専門知識や技能を身につけている。	4 7		5	
14	乳幼児や保護者との対応には公平を欠かさないようにしている。	5 2			
15	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	5 2			
16	生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	5 1		1	

Ⅳ 保護者への対応

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
17	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話・連絡帳	5 2			

	などを使って伝えあっている。				
18	保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針にしたがっている。	52			
19	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長・副園長に連絡、報告、相談している。	52			
20	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については容易に受けたり、断ったり、無視しないで園長や副園長、主幹保育教諭に報告や相談をしている。	52			
21	園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや、会話を心がけている。	52			

V 研修と研究

22	研修会や研究会に参加する際には、自分なりの目標をもって臨み、学習したものを報告書にまとめ提出している。	51		1	
23	自分の保育については、自己課題をもって計画と反省をおこなっている。	51		1	
24	研修に参加し、学習を通して、自身の保育に役立てている。	51		1	
25	絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	50		2	
26	アレルギー、自立の遅れなどが見られた場合、個々に応じた配慮や対応をおこなっている。	51		1	
27	趣味、人とのかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている。	51		1	

VI 食育・保健・環境

28	食事のマナーを知り、守って楽しく食事ができる環境作りを行っている。	51		1	
29	いろいろな食材に興味・関心を持ち、苦手な食べ物も食べられるように工夫している。	52			
30	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	52			

VII 成果と課題

<成果>

- ・ 保護者と話す際、以前より雰囲気も柔らかく接することができた。
- ・ 子どもの興味あることに目を向け、遊びを広げていくことで、子ども同士の仲間意識も高まった。
幼児一人ひとりとコミュニケーションをしっかりととり、理解した上で個々にあった関わりが出来た。
- ・ 初めての学年で不安であったが、周りの先生を見ながら、真似たりすることで少しずつ環境にも慣れ、自分のペースで保育を行えた。
- ・ 幼児が自分でしてみようという気持ちを持つことができるよう、日常生活や製作活動、行事を通して自信に繋がる関わりを心がけた。
- ・ 個々の成長に寄り添う保育を心掛けた。
- ・ 根気強く、幼児一人ひとりに伝え続けることで、相手の気持ちに気付けるようになり、全体の風通しがよくなった。また協力する姿やまとまりもでてきた。
- ・ 一人ひとりの成長を大切にし、できるようになったことを一緒に喜び、沢山褒めるよう心掛けた。
- ・ クラスの子どもの状況に合わせて活動内容を考えたり、指導の仕方を工夫し、環境の変化に順応しながら保育を行った。
- ・ 経験が増えてきた分、遊びや活動のアイディアは、増えてきたように思う。
- ・ 個々に合わせて食事の量やスピードなどじっくり援助してきた結果、少しずつ自ら食べられるようになってきた。
- ・ 子ども達がやりたい、作りたいと言ったものはできるだけ叶えられるよう保育をしてきた。
- ・ 療育機関との話し合いの場を多くもつことで、支援の方法をアドバイスしてもらい、保育に生かすことが出来た。
- ・ 生活面や活動に関しては子どもの成長やその時の状況に合わせて関わる事ができた。
- ・ 笑顔での関わりや個々の性格を把握し、その子が必要とする保育、求めている言葉掛けをしたりと、基本的なことから徹底し、信頼関係を築けるよう努めた。
- ・ 幼児一人ひとりとスキンシップを取りながら関係を築き、幼児の良いところや伸ばしたい所を多く見つけるように関わった。積極的な話し掛けにより、子どもから沢山甘えてくれるようになった。
- ・ 指導の仕方や子どもとの関わりなど多く学んだ。
- ・ カリキュラムに取り組む際、子ども達は楽しんで落ち着いて行うことができるようになった。
- ・ 複数担任で協力し合いながら進め、子どもの健康面や気になる事は常に伝えあい、保護者とも密に連絡を取って対応できた。
- ・ 子どもと向き合う時間を大切に関わってきた。性格や個性、その子にあった声の掛け方を見つけることができた。
- ・ 臨機応変に動き対応することや、園全体へ目を配ることを心掛け実践してきた。
- ・ ありのままを受け止め、気持ちに寄り添う保育ができた。危険な遊びをしている時は、理由をわかりやすく伝えるようにしてきた。
- ・ 預かり保育においては、小ホールを有効活用できた。
- ・ 自身の経験を生かし、流れをつかお事で、動きやすく安心して働くことができた。チームで課題、反省点は必要に応じて話し合いをもち、改善できるよう努めた。
- ・ それぞれの発達状況を考慮した保育を実践しようと努力してきた。一人ひとりの子どもと保育教諭間との信頼関係による情緒の安定や成長は保障できた。
- ・ 共通のねらいや目標をもって日々の保育に取り組むことができた。
- ・ 様々なクラスに入り、他の職員と一緒に保育をすることで自らの保育と比べ、学ぶことができた。

- ・ 散歩や公園に行く際には、安全面にしっかりと配慮し保育教諭間で声を掛け合いながら出掛けることで怪我なく過ごせた。

<課題>

- ・ 怪我のないように努める。
- ・ 自身が落ち着いて余裕をもって保育を行う。
- ・ 行事前における遊びと活動の時間配分。
- ・ 個別での援助、対応に必要な幼児との関わり方、クラス運営と平行して保育をする難しさ。
- ・ ピアノ・絵画等もっと技術が身に着く方法を考え実践していくこと。
- ・ 遊びの環境の充実化。
- ・ 園の様子や保護者の思いに寄り添い、安心して預けていただけるような保育の実施
- ・ 配慮を必要とする幼児への対応が十分でなかった。
- ・ 成長を促すような言葉掛けや見守り、見通しをもった保育の実践。
- ・ 自身の体調管理
- ・ 季節にあった新しい手遊びをもっと勉強して取り入れたい。
- ・ 幼児が自発的に活動できるような声掛け。
- ・ 時間配分、カリキュラムの進め方の工夫。
- ・ 全体を見ること（広い視野）を意識した保育実践。
- ・ 周囲を見て、機敏な行動がとれるよう心掛けること。
- ・ 幼児の個性、好きなことを生かしながら長所を伸ばしていく。
- ・ 様々な視点から幼児の姿を捉えること。
- ・ 年齢の違いにより遊びの動きも大きく違う為、配慮に欠けることがある。
- ・ 自身の役割を理解し、園内の活動がよりよく循環すべく動きたい。
- ・ 親子に寄り添って一人ひとりを大切にしたい保育。
- ・ 子どもの欲求を受け入れた過ごしやすい環境作り。
- ・ 子どもへの口調に気を付け、余裕が持てる保育。
- ・ 保育教諭間でのコミュニケーション。
- ・ もっと多くの絵本を知り、季節や子どもの様子に合った読み聞かせを行い、年齢に合った遊びが提供できるよう、知識を増やすこと。
- ・ 保育教諭としての実技力の向上
- ・ 同じテーマの中でも発達に合わせて楽しめるよう考え、計画し意見を出し合っていくこと。
- ・ 職員間での話し合いによる意識確認。
- ・ 室内・戸外遊びにおいてあまり変化がみられなかったため、季節や時期をみて新しい遊びを提供すること。

令和1年度 幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園

学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員

星岡長前町内会長

学校法人 愛媛幼稚園評議員、一級建築士

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 PTA 役員会会長

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 PTA 役員会副会長

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 園長 奥田正子

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 副園長 奥野かおり

学校法人 愛媛幼稚園 理事長 奥田一品

第1回学校関係者評価委員会

日時 令和1年11月29日
場所 幼保連携型認定こども園愛媛星岡幼稚園 会議室
出席委員 7名中6名

議題1 自己点検・自己評価に使用するアンケート項目の検討・承認

自己点検・自己評価に使用するアンケート項目について検討がなされた。各委員慎重に検討し、アンケート項目が承認された。

議題2 その他の意見・提案等

副園長の奥野から、自己点検・自己評価のアンケートに加えて、教職員の保育についての考え方を文章で示してもらったらどうかとの提案があった。PTA 役員会会長、PTA 役員会副会長から賛同とともに、意見が述べやすいように無記名にしてはいかかとの意見がだされた。

そこで自己点検・自己評価のアンケートに加えて、教職員の保育についての考え方を無記名のかたちで提出してもらおうことに決定した。

第2回学校関係者評価委員会

日時 令和1年2月12日

場所 幼保連携型認定こども園愛媛星岡幼稚園 会議室

出席委員 7名中6名

1名の欠席者は怪我のため主席できなかつたが、事前に渡された資料に基づいて、書面により意見を表明した。

議題1 自己点検・自己評価の結果について

・今回は自己点検・自己評価のアンケート項目を若干変更し、研修と研究、食育・保険。環境について検討・改善を行った。また前回、“いいえ・わからない”の多かった項目については、園内研修で理解・認識の向上をはかった。その結果、大部分の項目について、おおむね良好な結果が得られた。

・毎年この委員会に参加し、自己点検・自己評価の結果を見ているが、年ごとに改善がみられている。特に“研修と研究”の項目については改善が著しい。

・私も“研修と研究”についての改善が著しいと思う。保育教諭に音楽指導を行った先生も、当園の保育教諭の素直で研究熱心な態度を非常に称賛しており、アンケートの結果が書面上のものではなく、実際の現場においても確認されたと思う。

(書面による意見陳述)

・自己点検や自己評価が良くできている。何人かのできていない方に対する助言や指導を丁寧にやっていただきたい。特に研修や研究項目について“わからないと答えた方に対しては、分かりやすく指導してほしい。

・アンケート形式の自己点検・自己評価に加えて、記述式の“成果と課題”を実施しているが、その内容が素晴らしいと思う。普段の保育の中で、園児の自主性や創造性を尊重した丁寧な教育を行っていることがうかがえる。ただ単に知識・技能を教え込むのではなく、園児の自発的な活動、保育教諭や友人とのかかわりの中から生み出される活動などが想定され、今求められている非認知能力の発達に寄与していると思われる。

議題2 その他の意見・提案等

(書面による意見陳述)

・インターネットなどの評価では、方針・理念が4位から2位に、先生が12位から7位に、保育内容・教育内容が3位から1位にそれぞれ改善されている。

・東京にいる娘が出産のため帰ってきて、一時保育を3か月ほど利用したが、愛媛星岡幼稚園の先生がみな優しく、登園するのが楽しくてしょうがないといていた。東京に帰ってからも愛媛星岡幼稚園のことを話しているという。私的な話題で申し訳ないが、教職員の人柄・努力が垣間見られた。

・演奏会で『パプリカ』を演奏していたが、小学校でもむつかしくて他の曲に変更したナンバーであり、良く演奏できたと思う。

・耐震性は大丈夫とのことだが、古い園舎もあるので、順次新しいものに建て替えてほしい。